

中期経営計画

令和7(2025)年度 ～ 令和11(2029)年度

栃木県道路公社

令和7(2025)年3月

目次

I	はじめに	2
II	事業概要	6
III	公社を取り巻く環境と課題	12
IV	目標	28
V	目標の実現に向けた取り組み	34
VI	着実な計画の実現に向けて	40

I はじめに

- 1 計画策定にあたって
- 2 道路公社概要
- 3 経営基本方針

1 計画策定にあたって

① 趣旨

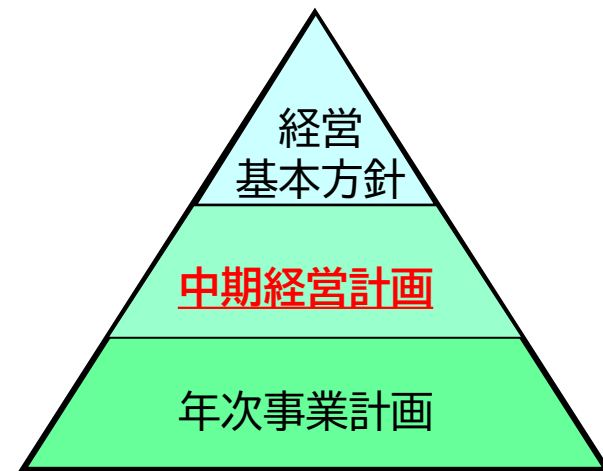
経営基本方針に基づき、栃木県の“魅力あふれる地域づくり”の実現に向けた5年間の具体的な取組について策定するもの。

② 計画期間

令和7(2025)年度～令和11(2029)年度 (今回策定)

③ これまでの経過

平成19年度 ～ 平成23年度	… 栃木県道路公社健全経営のための行動計画
平成24年度 ～ 平成28年度	… 栃木県地域づくり機構(道路公社)経営指針
令和2年度 ～ 令和6年度	… 中期事業計画



中期経営計画の位置付け

2 道路公社概要

- ① 沿革 ・ 栃木県道路公社は、昭和45年4月に「財団法人栃木県道路公社」として発足し、同年5月の地方道路公社法の制定を踏まえて、栃木県が設立団体となり、昭和46年2月に栃木県道路公社が設立された。平成22年12月に示された特定指導法人の見直し基本方針(改定)により、平成24年4月に栃木県土地開発公社および栃木県住宅供給公社の管理部門と統合を実施し、3公社を総称する呼称として「栃木県地域づくり機構」となり、現在に至る。
- ② 目的 ・ 県の政策と一体となって有料道路の整備・維持管理等を総合的かつ効率的に行うこと等により、地域幹線道路の整備を促進して交通の円滑化を図り、もって住民の福祉の増進と産業経済の発展に寄与することを目的としている。主な事業内容は以下のとおり。

有 料 道 路 事 業：道路整備特別措置法に基づく栃木県内の区域およびその周辺地域における有料道路の建設と維持管理。

駐 車 場 事 業：有料自動車駐車場の建設、管理。

受 託 事 業：県管理トンネルの施設保守および監視業務、一般国道119号宇都宮北道路の交通管理業務

3 経営基本方針（令和6(2024)年3月）

栃木県地域づくり機構は、国・県・市町・関係機関と連携・協力して、

- ・ 公共用地の取得、産業団地の造成・企業誘致による「地域の社会資本整備や活力創出」
- ・ 質の高い有料道路サービスの提供による「地域社会の発展と地域経済の活性化」
- ・ 県営住宅の管理・運営等による「県民生活の安定と社会福祉の増進」

を通して、誰もがいきいきと暮らせる「魅力あふれる地域づくり」の実現に取り組みます。

栃木県土地開発公社

栃木県道路公社

栃木県住宅供給公社



栃木県道路公社 経営基本方針

栃木県道路公社は、

栃木県の魅力あふれる地域づくりに向けて、いつも安全で安心、そして快適に走行いただける質の高い有料道路サービスを提供することにより、地域社会の発展と地域経済の活性化に貢献します。

1	有料道路事業	・ ・ ・	(1) 日光宇都宮道路
			(2) 宇都宮鹿沼道路
2	駐車場事業		
3	受託事業	・ ・ ・	(1) トンネル保守管理業務
			(2) 交通管理業務

1 有料道路事業 (1) 日光宇都宮道路(日光道)

- 首都圏から国際観光都市『日光』へのメインアクセス道路。東北自動車道と直結しており、高速ネットワークの一部を構成している。
- 2005年6月に旧道路公団より引き継ぎ後、2007年にETC設備を設置し、土沢IC (2011年) と篠井IC (2019年) を新設した。
- 第一次緊急輸送道路、重要物流道路に指定され、大規模災害時の救援・復旧活動においても重要な役割を担う。

路線名：国道119号 および 120号

起点・終点：宇都宮市徳次郎町～日光市清滝桜ヶ丘町

延長：30.7km

道路規格：第1種第3級

設計速度：80km/h(宇都宮IC～日光IC)、60km/h(日光IC～清滝IC)

車線数：宇都宮IC～日光IC間 4車線、日光IC～清滝IC間 2車線

支払手段：ETC、現金

施設：インターチェンジ8箇所、料金所5箇所、橋梁25箇所、
トンネル2箇所、PA(上下線)1箇所

交通量：約8,700千台/年間(2023年度実績)

料金徴収期間：昭和51(1976)年12月25日～令和16(2034)年 5月19日

料金(全線)：[通常] 普通車470円、大型車690円、特大車1,630円
[閑散期割引、ETC時間帯割引]

普通車360円、大型車530円、特大車1,260円



1 有料道路事業 (2) 宇都宮鹿沼道路(さつきロード)

- 東北自動車道 鹿沼ICから宇都宮環状道路(宮環)を連結する路線であり、国、県の広域道路交通計画において高規格道路と一体となって機能する「一般広域道路」に位置付けられている。
- 1996年5月に広域災害対策活動拠点(県総合運動公園)に至る第二次緊急輸送道路として指定された。

路線名 : 国道121号
起点・終点 : 鹿沼市深津字下台原～宇都宮市西川田町字西田
延長 : 1.6km
道路規格 : 第3種第2級
設計速度 : 60km/h
車線数 : 2車線
支払手段 : 現金、回数券
施設 : 料金所1箇所、橋梁2箇所(下欠高架橋、向川原橋)
交通量 : 約900千台/年間(2023年度実績)
料金徴収期間 : 平成 8(1996)年 3月18日～令和 8(2026)年 3月17日
料金(全線) : 普通車160円、中型車210円、大型車260円、
特大車430円、軽自動車110円、軽車両等20円



2 駐車場事業

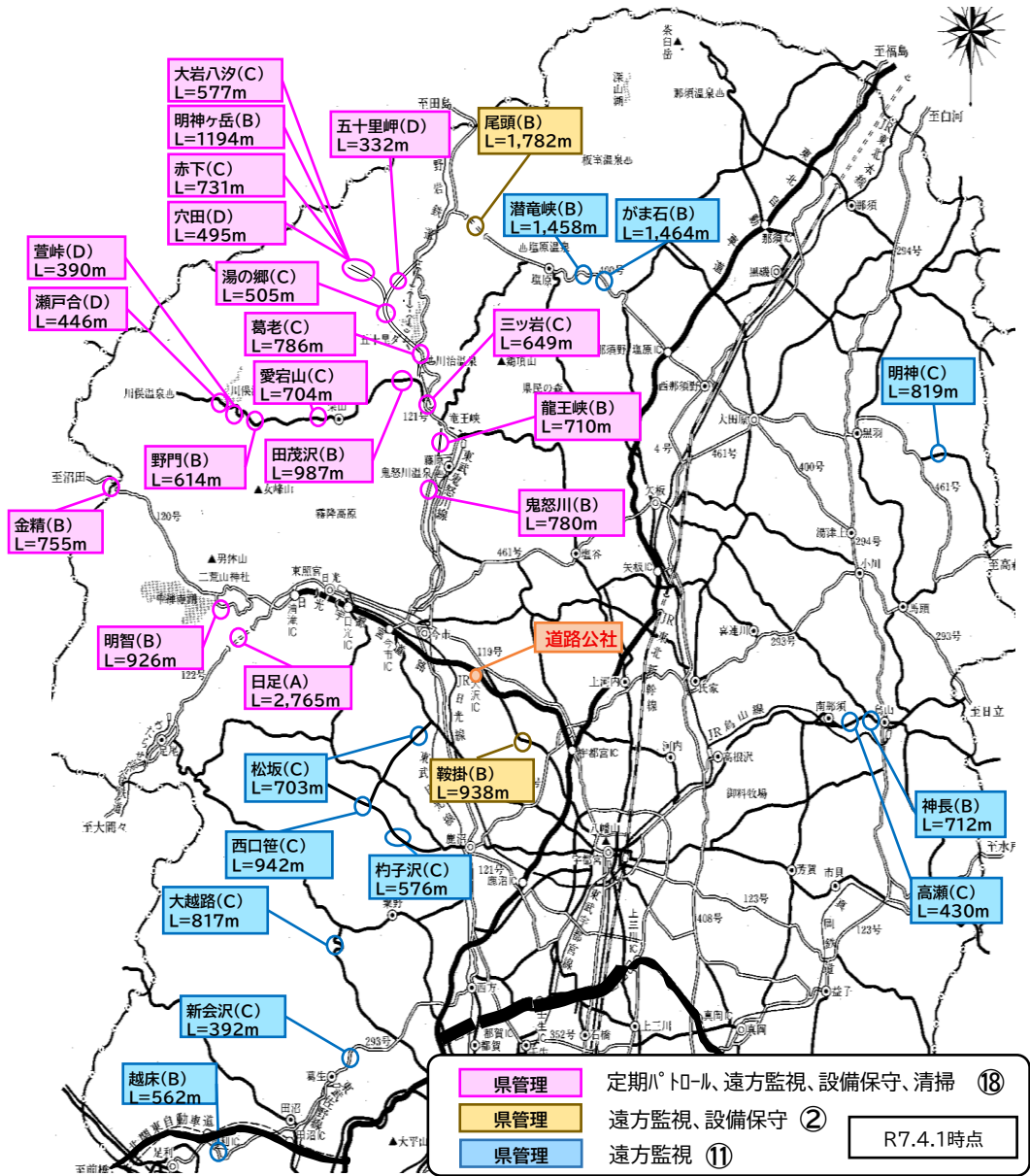
- 高架下・陸橋下の遊休地を有効活用し、駐車場を整備することで、路上駐車防止による道路交通の円滑化や、都市機能の維持及び増進に寄与することを目的とする。

駐車場名称	所在地	供用開始	台数	料金 (R7.4.1 時点)
鬼怒通り高架下駐車場	宇都宮市 東宿郷 5丁目地内	1997.10.1～	44台	13,750円
	宇都宮市 東今泉 1丁目地内	2004.12.1～	15台	
鶴田陸橋下駐車場	宇都宮市 鶴田町 1410番地先	2002.11.1～	84台	5,500円
駒生陸橋下駐車場	宇都宮市 駒生町 810番地先	2002.11.1～	55台	5,500円
宇都宮北道路陸橋下駐車場 ・ 宝木本町 ・ 下金井 ・ 野沢第1～第4 ・ 戸祭第1～第3	宇都宮市 宝木本町2251-5番地先	2019.7.1～	85台	3,630円
	宇都宮市 下金井町936-5番地先	2022.2.1～	40台	
	宇都宮市 野沢町地内	2004.3.20～	213台	
	宇都宮市 上戸祭町地内	2004.3.20～	96台	
雨情陸橋下駐車場	宇都宮市 鶴田町 2番地内	2004.9.1～	58台	5,500円
下川俣陸橋下駐車場	宇都宮市下川俣町206-190番地先	2019.12.1～	87台	5,500円
栃木街道跨線橋下駐車場	宇都宮市 鶴田町 3337番地先	2021.3.1～	16台	4,400円
計			793台	



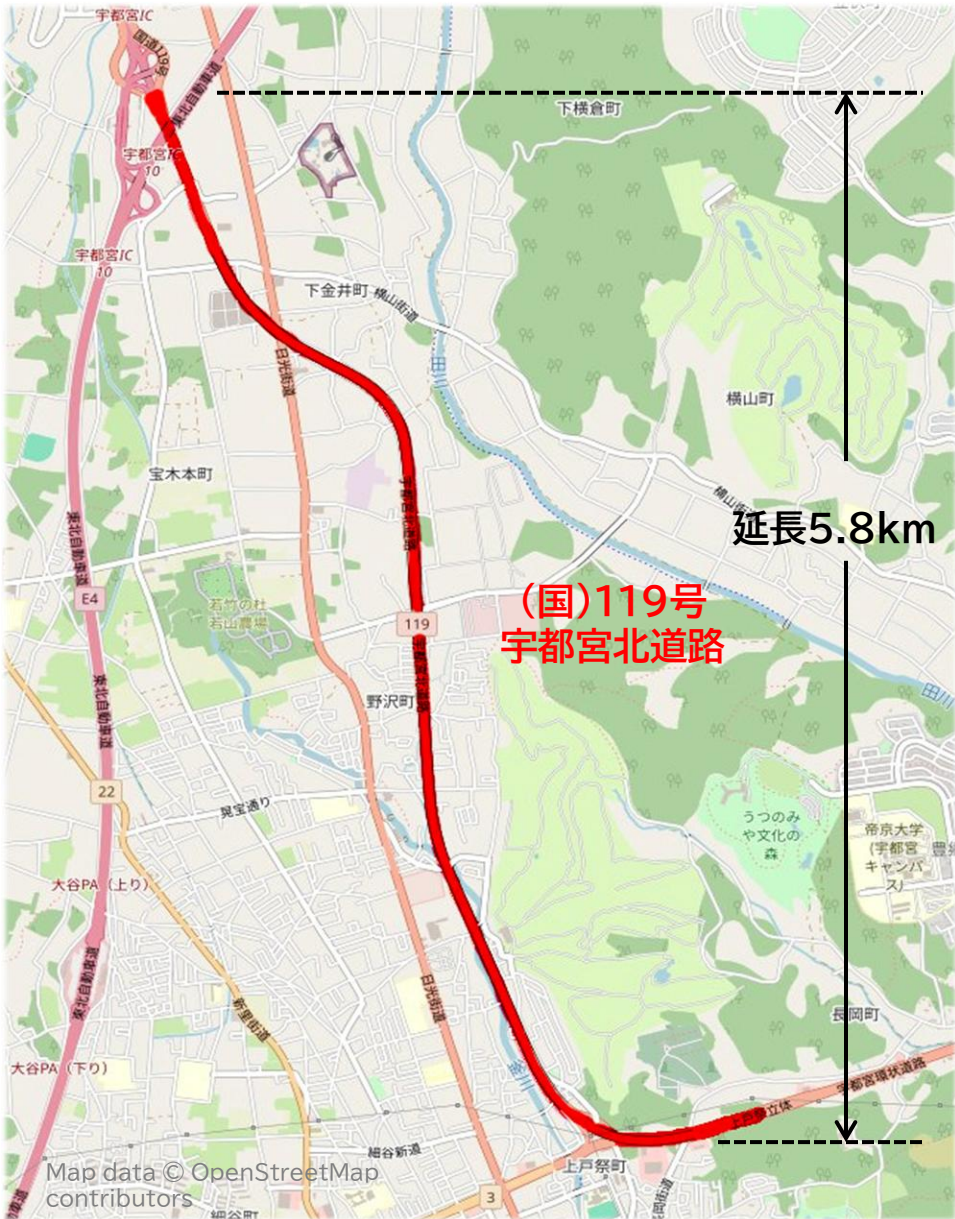
3 受託事業 (1)トンネル保守管理 業務委託

委 託 者	栃木県 県土整備部 道路保全課																	
	・日光宇都宮道路で24時間体制を敷いている道路公社では、県管理トンネルの安全な走行環境を確保するための監視体制が整っていることから、県から監視制御・設備保守業務を受託し、安全で円滑な交通を総合的に確保することに努めている。																	
業 務 内 容	<table><tr><th>内 容</th><th>受託トンネル</th><th>数</th></tr><tr><td>・定期パトロール ・清掃 ・設備保守点検 ・遠方監視制御</td><td>日足、田茂沢、葛老、明智、金精、野門、三ツ岩、湯の郷・五十里岬、萱峠・瀬戸合、大岩八汐・明神ヶ岳・赤下・穴田、愛宕山、龍王峡、鬼怒川</td><td>18</td></tr><tr><td>・設備保守点検 ・遠方監視制御</td><td>尾頭、鞍掛</td><td>2</td></tr><tr><td>・遠方監視制御</td><td>明神、神長、越床、大越路、高瀬、がま石、新会沢、松坂、杓子沢、西口笹、潜竜峡</td><td>11</td></tr><tr><td></td><td>計</td><td>31</td></tr></table>			内 容	受託トンネル	数	・定期パトロール ・清掃 ・設備保守点検 ・遠方監視制御	日足、田茂沢、葛老、明智、金精、野門、三ツ岩、湯の郷・五十里岬、萱峠・瀬戸合、大岩八汐・明神ヶ岳・赤下・穴田、愛宕山、龍王峡、鬼怒川	18	・設備保守点検 ・遠方監視制御	尾頭、鞍掛	2	・遠方監視制御	明神、神長、越床、大越路、高瀬、がま石、新会沢、松坂、杓子沢、西口笹、潜竜峡	11		計	31
内 容	受託トンネル	数																
・定期パトロール ・清掃 ・設備保守点検 ・遠方監視制御	日足、田茂沢、葛老、明智、金精、野門、三ツ岩、湯の郷・五十里岬、萱峠・瀬戸合、大岩八汐・明神ヶ岳・赤下・穴田、愛宕山、龍王峡、鬼怒川	18																
・設備保守点検 ・遠方監視制御	尾頭、鞍掛	2																
・遠方監視制御	明神、神長、越床、大越路、高瀬、がま石、新会沢、松坂、杓子沢、西口笹、潜竜峡	11																
	計	31																
	・その他、1,000m以上の3トンネル(日足、尾頭、明神ヶ岳)については、県が主催する防災訓練に専門的な立場から支援している。																	



3 受託事業 (2)交通管理 業務委託

対象路線	国道119号(宇都宮北道路)
委託者	<p>栃木県 宇都宮土木事務所</p> <p>・当該道路は一般道として速度80km/h走行路線(全国初の規制緩和によるもの)であり、高速道路と同様の専門的な交通管理技術が必要であること、また、日光道と一体的に管理することが効率的、効果的であることから、高速走行路線の管理等で経験・実績のある道路公社が、本業務を県から受託し、安全・安心な走行環境を確保している。</p>
業務内容	<p>パトロール回数 4回／日</p> <ul style="list-style-type: none">◆ 落下物の除去(撤去可能なものに限る)◆ 故障車および交通事故時の初期安全確保◆ 道路、交通および気象状況の異常を発見した場合の緊急連絡



Ⅲ 公社を取り巻く環境と課題

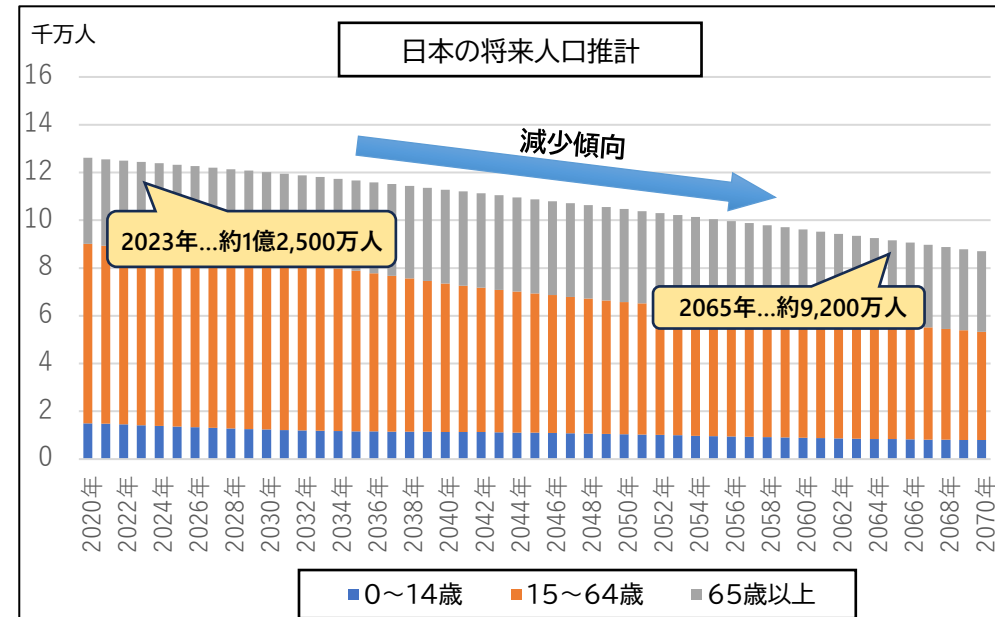
- 1 公社を取り巻く環境
 - (1) 社会的背景の変化
 - (2) 有料道路を取り巻く環境
 - (3) 道路公社の経営状況
 - (4) 「特定出資法人等の自律的運営に向けた基本方針」に基づく運営評価
- 2 各事業の課題
 - (1) 有料道路事業
 - (2) 駐車場事業
 - (3) 受託事業

1 公社を取り巻く環境

(1) 社会的な背景の変化

① 人口減少・少子高齢化

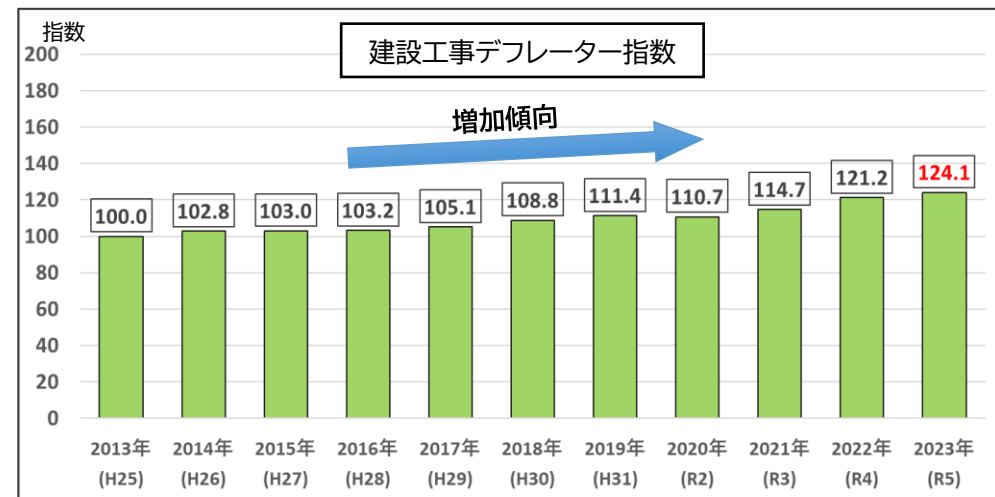
- 2023年の国立社会保障・人口問題研究所の推計では、2065年までに日本の総人口は約9,200万人に減少し、65歳以上の高齢者の割合は約40%に達すると見込まれ、労働人口の減少が進むことが想定される。このようなことから交通インフラの利用者数の減少が予想される。



※国立社会保障・人口問題研究所

② 人件費・資材費の高騰

- 労働力不足や国際情勢の変化等により、人件費や資材費も年々増加している。建設や維持管理コストを示す国土交通省の建設工事デフレーター指数によると、現在は、10年前の2013年対比で24.1%増加している。

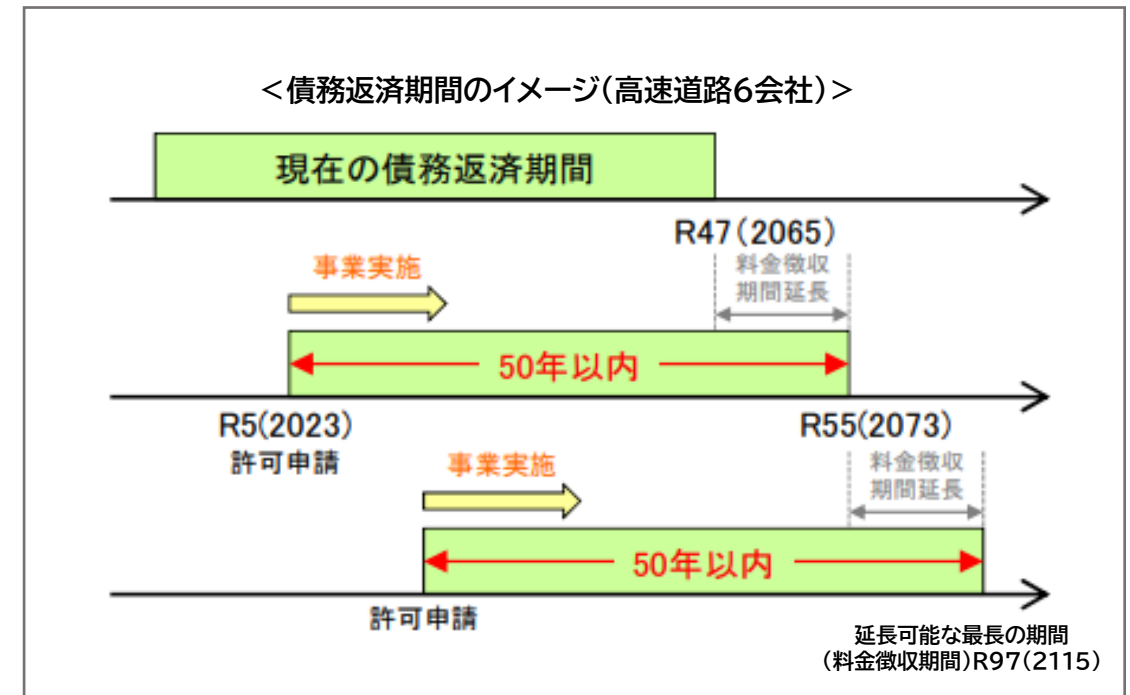


(2) 有料道路を取り巻く環境

- 2014年の道路法改正により重要構造物の点検が強化され、重大な損傷の発見が相次ぎ、将来に亘って機能を維持するための対応が求められている。また、自然災害に強い国・地域づくりを目指す国土強靱化基本法の制定等を踏まえ、防災・減災の面からも耐震性能の向上や老朽化対策の推進が求められている。

- 2023年には、道路整備特別措置法や独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構法の一部が改正され、高速道路においては、料金徴収期間の延長等により必要な財源を確保することで、その適正な管理や機能強化の推進へ向けたスキームが確立された。

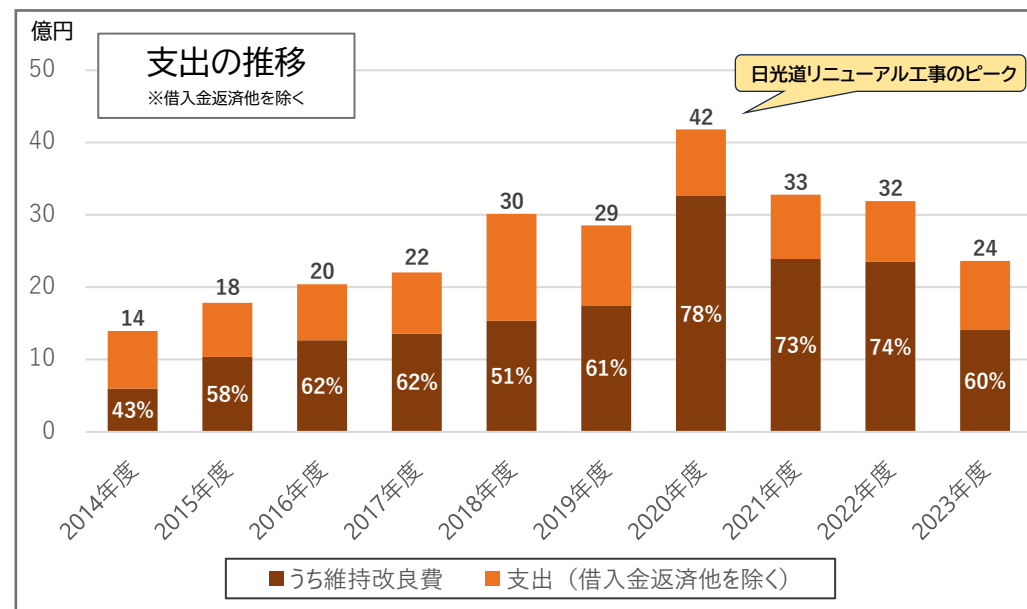
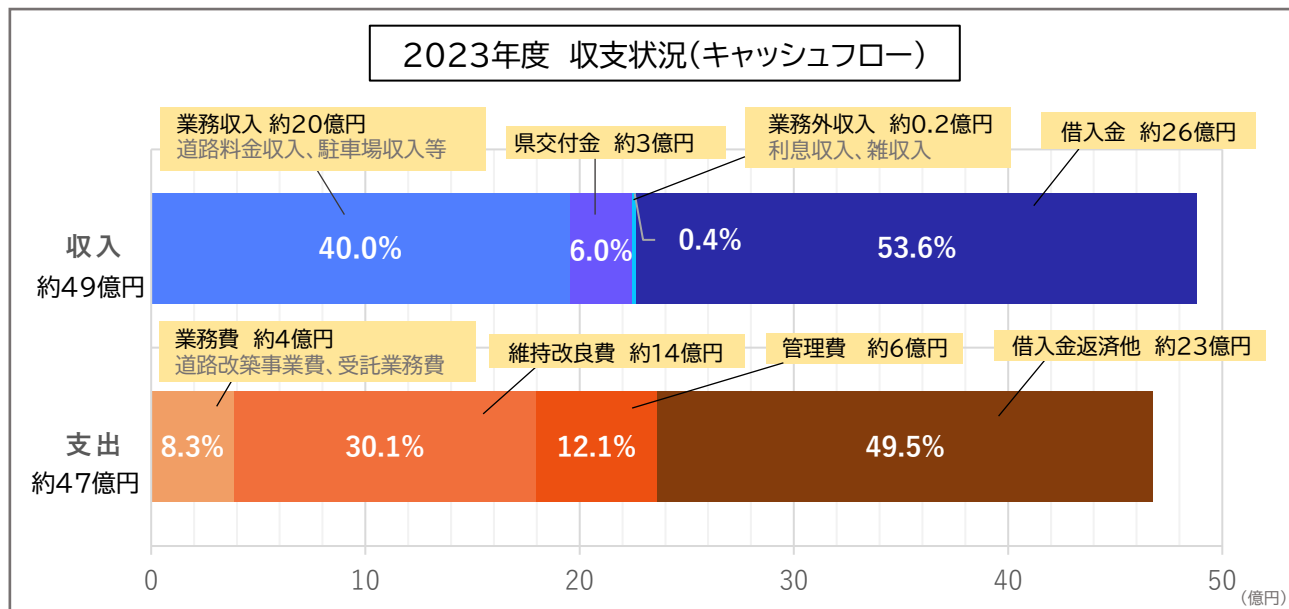
地方の有料道路においては、このような制度改正は行われていないが、引き続き、安全安心な走行環境の確保に向けた取り組みが求められている。



(3) 経営状況について

① 収入と支出状況

- 2023年度決算収入においては、総額が約49億円であり、道路料金収入等約40%に対し、銀行からの借入金約54%と上回っている状況にある。
- 支出においては、総額が約47億円であり、維持改良費が全体の約30%に対し、銀行からの借入金返済等が約50%と上回っている状況にある。
- 支出の推移をみると、支出に占める維持改良費の割合は、2014年度に43%だったのに対し、日光道リニューアル工事のピークである2020年度には78%まで上昇し、その後も高い割合を占めている。



② 財務状況について

【現 状】

- 自己資本比率の減少は、料金徴収期間満了(鬼怒川)に伴う精算により、出資金が減少したことによる。
- 維持管理における人件費や資材費の上昇や、日光宇都宮道路の大規模修繕費の増加等により債務残高が増えている。
- 管理路線減少(鬼怒川)に伴い、プロパー職員定年による再雇用などにより人件費率が改善された。

【課 題】

- 有利子負債依存度に影響を及ぼしている債務残高を減少させていくため、支出削減と増収対策を講じる必要がある。

➤ 財務諸表

財務指標	2021年 (R3)	2022年 (R4)	R3・R4 平均	2023年 (R5)	R3・R4 平均対比		コメント
自己資本比率	21.5	17.1	19.3	16.3	▲3.0	☂	・鬼怒川有料道路無料開放に伴う資本(出資金)減少。
流動比率	36.0	33.0	34.5	43.5	9.0	☀	・大規模修繕工事等に伴う未払金、借入金返済額増に対応のための流動資産増。
有利子負債依存度	43.8	66.3	55.0	65.2	10.2	☂	・大規模修繕工事等に伴う有利子負債(借入金)増
売上高対販売・ 管理費比率	8.3	8.4	8.3	8.3	0.0	☘	・販売費・管理費ともにR3・R4平均よりも増加しているが、売上高も同様に増加しているため、比率は変わりなし。
人件費率	77.6	63.0	70.3	58.7	▲11.6	☀	・退職者の再雇用切替、事務員退職の不補充、組織若返り
総資本経常利益率	0.0	0.0	0.0033	0.0034	0.0	☘	・高架下駐車場の収支差益が対象。変動なし。

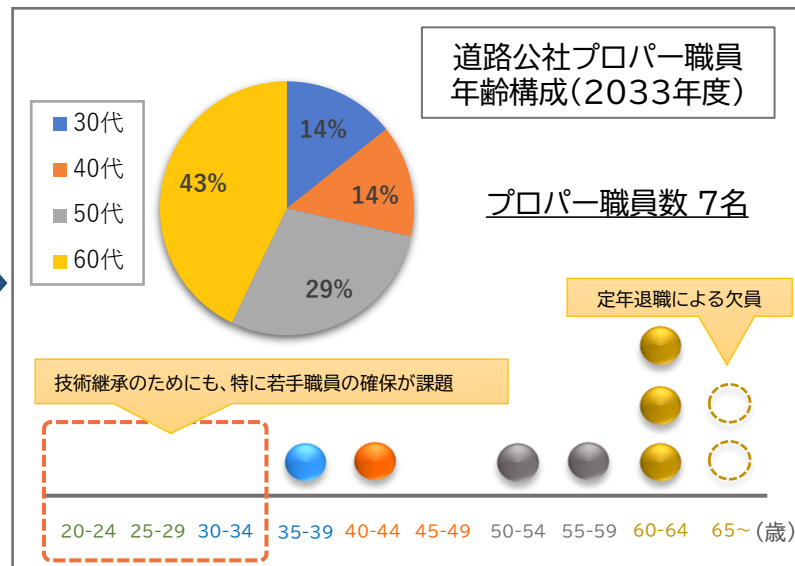
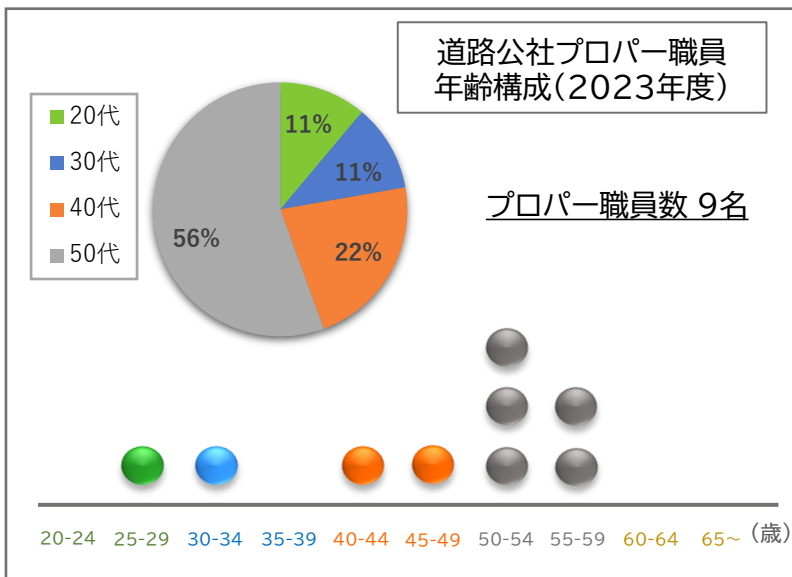
③ 組織の現状と課題

【現 状】

- 2023年度のプロパー職員の年齢構成は、職員の半数以上(56%)が50代以上となっており、職員の高齢化が進んでいる。このまま推移すると10年後の2033年度には、50代以上の職員が約7割(72%)に達する見込みである。

【課 題】

- こうした中、ベテラン職員の暗黙知となっている知識や経験を確実に引き継ぎながら、若手職員の育成と人材の確保が必要である。
- 「働き方改革」を進めるため、報告書類や会議資料等のペーパーレス化やリモート会議の積極的な実施等、業務効率化を図ることが必要である。



ペーパーレス化の検討が必要な書類
(例:1か月分の日報・月報)





(4) 「特定出資法人等の自律的運営に向けた基本方針」に基づく運営評価

○ 道路公社は、栃木県が改定した「特定出資法人等の自律的運営に向けた基本方針」により、県が制度化した運営評価制度に基づき、事業の見直しや経営改善等に取り組んでおり、2024年度の総合評価は「B」となっている。



○ 県の総合的所見として、「安全確保と利便性向上の両立を図りながら、有料道路等の管理・運営に取り組んでいる。引き続きデジタル技術を活用した業務の効率化や、広報活動等の強化による有料道路の利用促進に努め、事業収入の確保を図られたい。また、法人経営においては、経営基本方針を策定するなど業務改革に向け、積極的に取り組んでいる。今後は法人の有する知識や技術の継承に向け、計画的な職員の確保・育成に取り組まれない」との評価を受けている。
(2024年度運営評価(2023年度事業実施結果)から)

2 各事業の課題(1)有料道路事業 ① 日光宇都宮道路

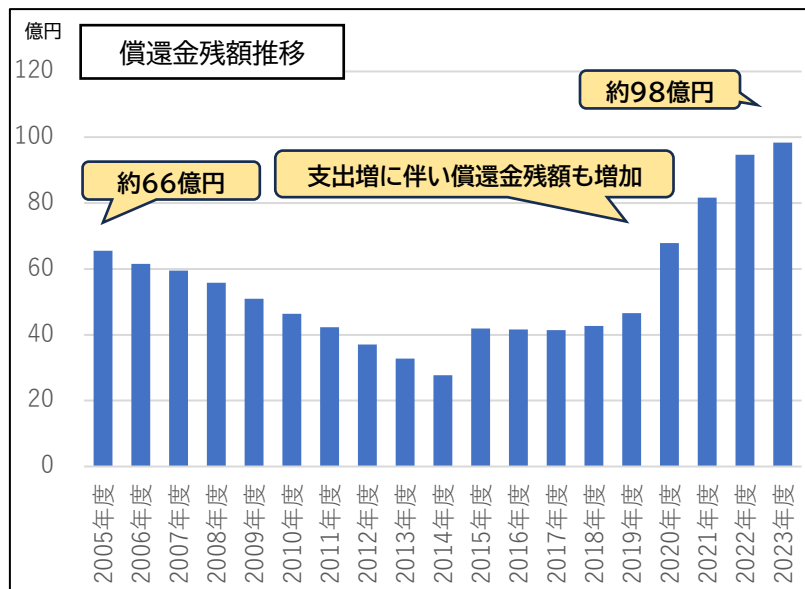
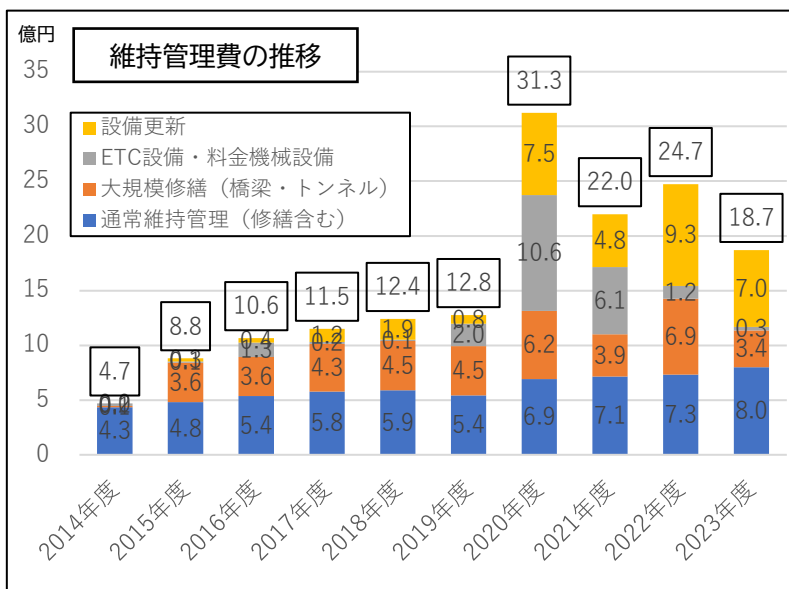
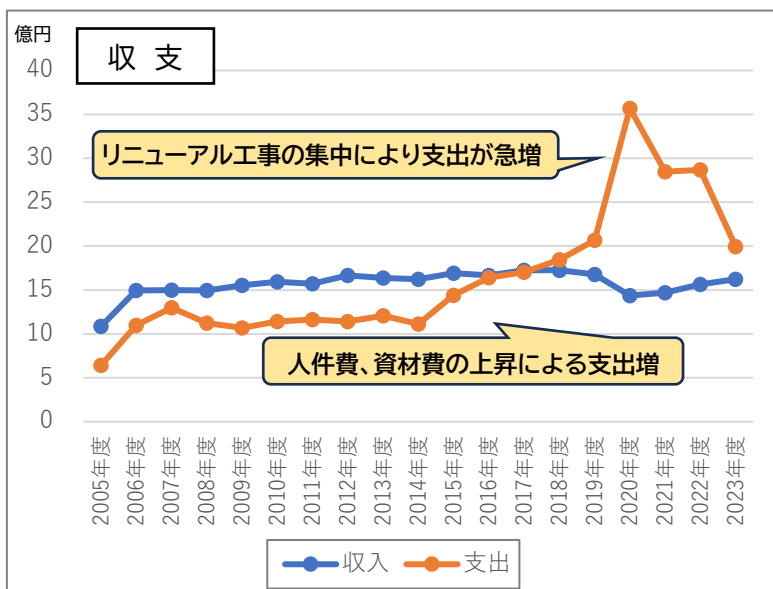
日光宇都宮道路の現状と課題（収支状況）

【現 状】

- 収支および維持管理費の推移をみると、維持管理費が2014年度から2023年度にかけて増加傾向。特に2020年度は橋梁の耐震化等の大規模修繕に加え、ETCや伝送ケーブル等の想定外の設備更新が重なり急増している。
- 償還金残額推移をみると、日光宇都宮道路の建設のため借り入れた費用（償還金）は、順調に減少してきたが、人件費、資材費の上昇や維持管理費の上昇、想定外の設備更新等に伴い増加し、2023年度末で約98億円となっている。

【課 題】

- インフラの維持管理費が上昇しており、支出増に対して収入だけでは賄いきれず、事業に必要な財源を確保していく必要がある。



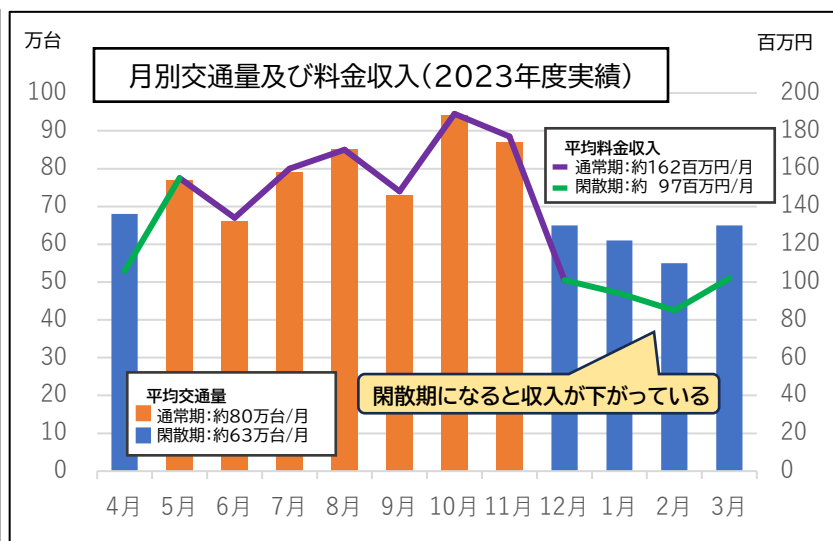
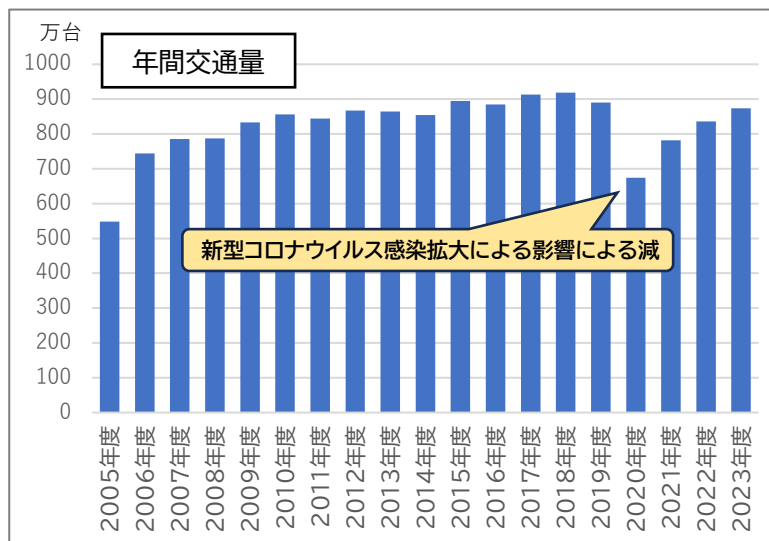
日光宇都宮道路の現状と課題（交通量と料金収入）

【現 状】

- 年間交通量は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、交通量が大幅に減少するも、2023年度には コロナ前の水準近く（2019年度対比98.2%）まで回復した。
- 月別交通量をみると、行楽シーズンは、県内外から多くの観光客が利用することにより交通量が顕著に増加する傾向があり、特に紅葉シーズン（10月～11月）は年間で交通量が最多で、清滝ICを先頭に日光ICの間で、渋滞が発生することがある。
- 月別料金収入をみると、閑散期は通常期と比べ、閑散期割引料金の適用により、交通量の減少以上に料金収入が減少している。

【課 題】

- 安全な走行環境の維持に必要な収入を今後も確保していくため、通常期の交通量維持に加え、閑散期の新規需要をいかに増加させていくかといった利用促進策を進めていく必要がある。
- 紅葉シーズンでは、関係機関（県・市）等と連携しながら渋滞対策を行い、利用者の利便性向上を図っていく必要がある。



日光宇都宮道路の現状と課題（老朽化・耐震化対策）大規模修繕工事の進捗状況

【現 状】

- 2016年より老朽化・耐震化対策を大規模修繕工事(日光道リニューアル工事)として実施している。
- 過年度の法定点検の結果、老朽化対策が必要な橋梁は、25橋中24橋、うち17橋が対策済であり、1橋が対策中、未実施は6橋となっている。
- 耐震化対策については、現行の耐震基準を満たしていない橋梁21橋に対し、15橋が対策済であり、未実施は6橋となっている。
- 老朽化対策と耐震化対策を同時施工すること等により、コスト縮減を図っている。

【課 題】

- 未実施の6橋については、老朽化・耐震化対策を計画的に進めていく必要がある。
- 人件費や資材費等の上昇による維持管理費の増加等で全体の収支が悪化していることから、必要な財源の確保を図る必要がある。



日光宇都宮道路の現状と課題（安全な走行環境の確保）

【現 状】

- 安全な走行環境確保のため、逆走や誤進入対策として注意喚起標識等の設置、人や自転車の立入防止として人感センサー設置、野生動物の侵入防止としてフラッシュライト設置など、様々な対策を行った結果、一定の効果は見られたものの依然としてゼロには至っていない。
- 舗装修繕や樹木伐採、冬季の雪氷対策等、適宜走行環境の維持に努めている。

【課 題】

- 逆走等については、死傷事故に繋がる可能性が非常に高いことから、これまでの対策の効果と発生状況の分析を行い、引き続き重要課題として対応策を講じていく必要がある。
- 路面の経年劣化や樹木の成長、冬季路面環境の変化等があることから、継続して良好な走行環境の提供に取り組んでいく必要がある。

道路上の様々な問題・現状



逆走



誤進入



路面の経年劣化



歩行者等立入



野生動物侵入



倒木

年 度	逆走 件数	歩行者等 侵入件数	野生動物 衝突件数
2019年度	10	4	15
2020年度	11	5	14
2021年度	9	7	7
2022年度	16	8	5
2023年度	6	9	9
合 計	52	32	50

これまでの対策 事例



（逆走対策）注意喚起標識の設置



（維持管理）雪氷対策



（立入対策）人感センサー設置



（獣害対策）フラッシュライト設置



（維持管理）樹木伐採



（誤進入対策）区画線表示

日光宇都宮道路の現状と課題（利用者ニーズに対応するためのDX推進）

【現 状】

- 安全性向上等のため、高速道路では、道路情報板やSNS、PAやSAのデジタルサイネージやE-ハイラジ、ETC2.0によるデータ通信等を活用し、リアルタイムの交通情報を利用者へ提供している。
- 一方、日光宇都宮道路では、道路情報板やSNS、日光口PA掲示板で情報発信を行っている。

【課 題】

- 道路利用者の安全運転や渋滞対応のために、常に最新の情報を発信することが重要であり、情報化が発達した現代においては、これまで以上に迅速で正確な情報把握や、利用者への情報提供が求められる。
- 高まる利用者ニーズに対応するため、2020年～2023年にかけて導入した光ケーブルを活用し、よりタイムリーな情報発信に努める必要がある。

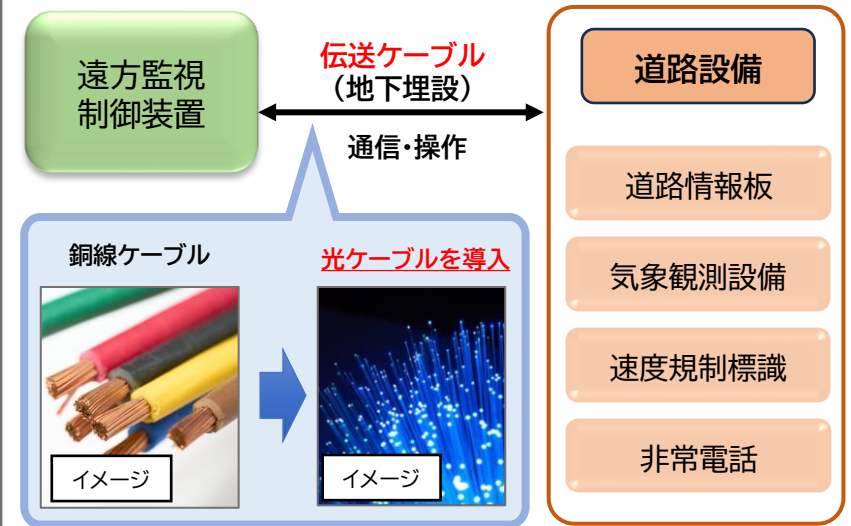
交通情報の提供手段(日光道)



交通情報の提供手段(高速道路)



伝送ケーブル更新(光ケーブル化)



2 各事業の課題（1）有料道路事業 ② 宇都宮鹿沼道路

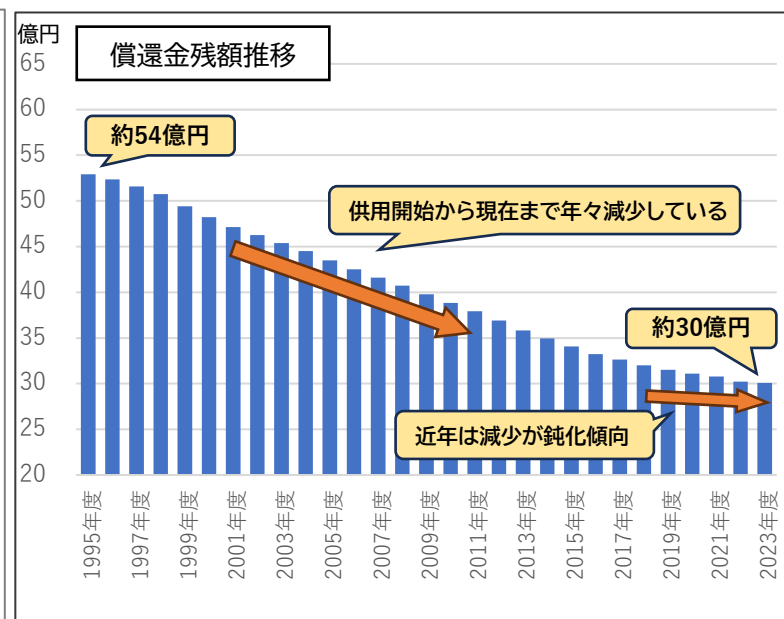
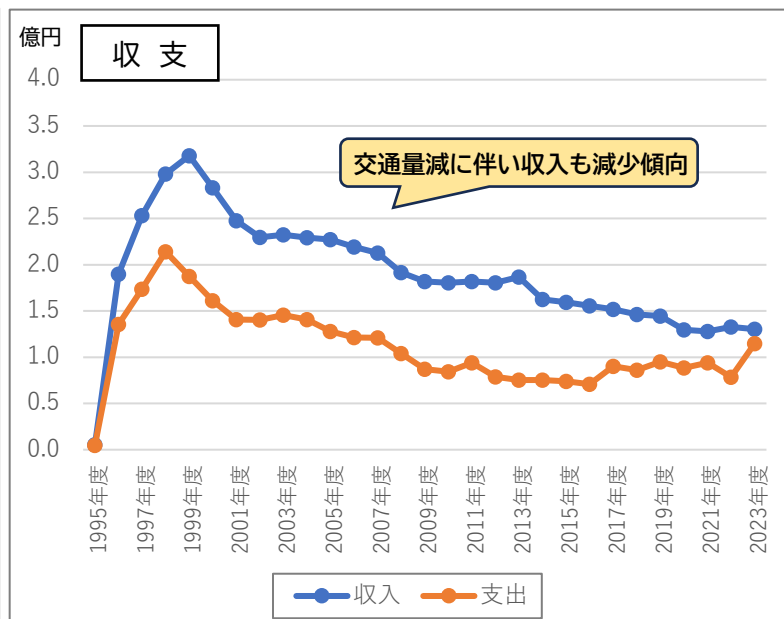
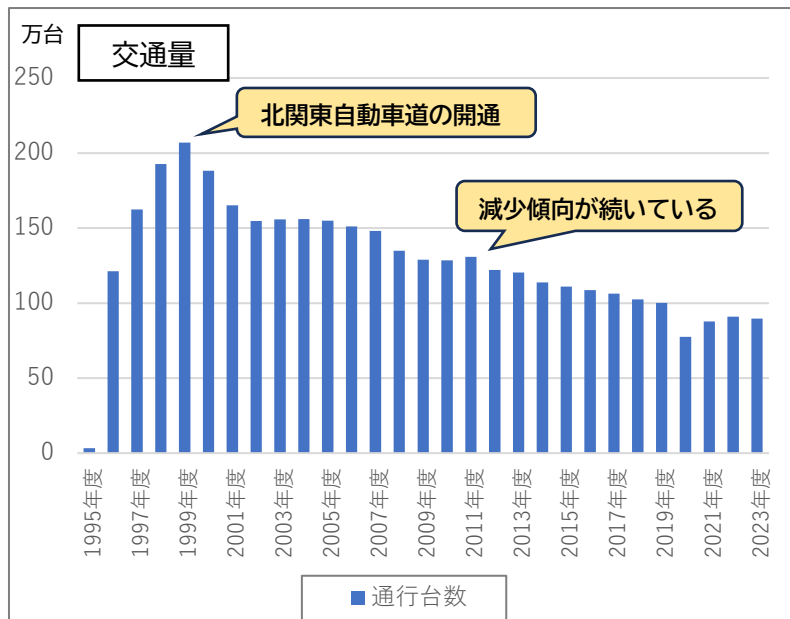
宇都宮鹿沼道路の現状と課題（交通量および収支状況）

【現 状】

- 生活道路としての側面が強く、交通量の季節的な変動要因は少ない。通勤通学の朝・夕の時間帯に交通量が集中する傾向がある。
- 交通量および収入額は、1998年に北関東自動車道の開通等に伴い、1999年をピークに減少が続いている。
- 償還金残額は、供用開始から現在に至るまで年々減少しているが、近年は鈍化傾向にある。

【課 題】

- 料金徴収期間満了は令和8年3月であるが、収支改善のため、令和7年度はさらなる利用促進を図る必要がある。



宇都宮鹿沼道路の現状と課題（橋梁の耐震化および長寿命化の状況）

【現 状】

- 耐震化については、向川原橋、下欠高架橋の2橋とも現行の耐震基準（耐震性能Ⅲ）を満たしていない。
- 長寿命化については、直近の法定点検では、損傷は小さく健全とされている。

【課 題】

- 県移管後の2橋の耐震対策方針について、県と協議を進める必要がある。

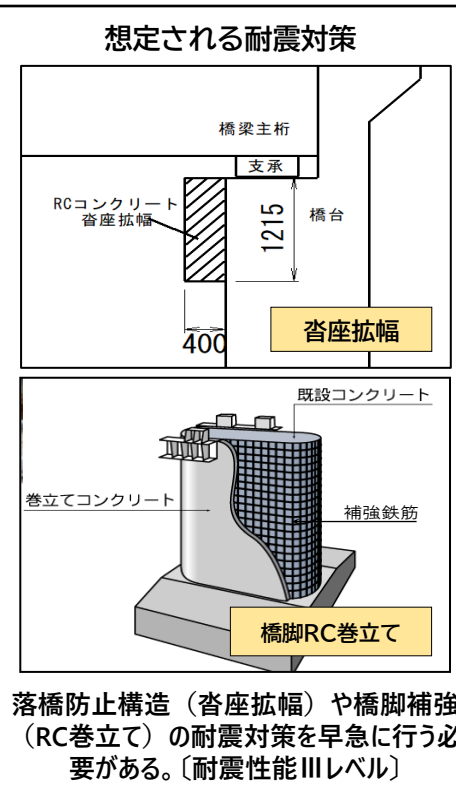


平成8年架設
橋長：L=452.5 m、有効幅員：W=9.5 m
上部工形式：3径間連続PC中空床版×2連・単純PC箱桁
5径間連続PC中空床版×2連・単純プレテン中空床版
適用示方書：平成2年2月・道路橋示方書



平成8年架設
橋長：L=59.4 m、有効幅員：W=9.5 m
上部工形式：2径間連結PCポストテンション方式T桁橋
適用示方書：平成2年2月・道路橋示方書

古い基準で設計されており、現基準では耐震対策が不十分



2 各事業の課題（2）駐車場事業

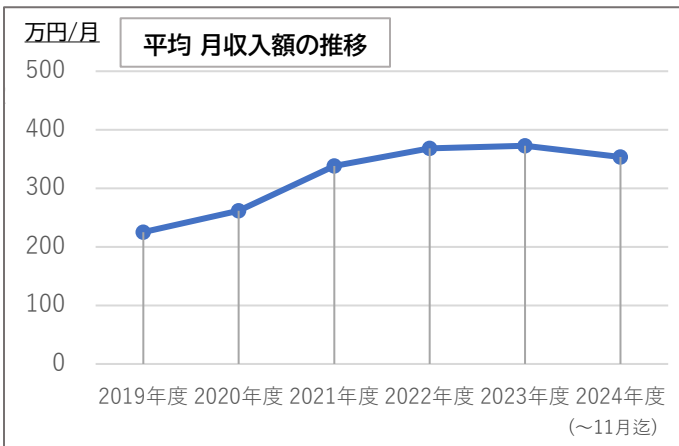
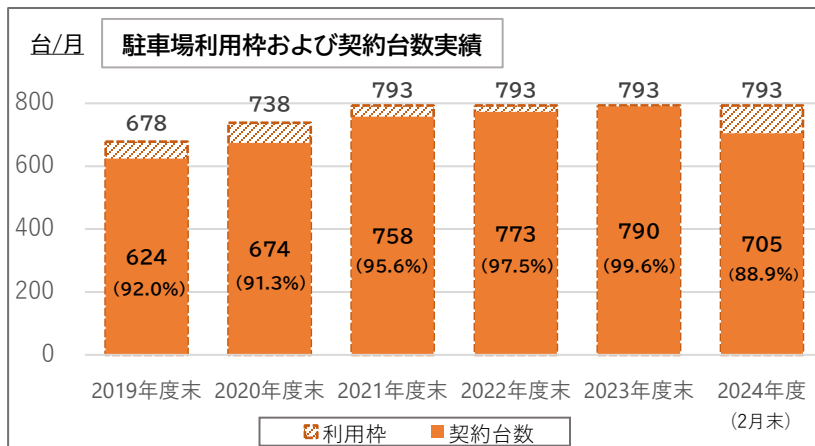
駐車場事業の現状と課題

【現 状】

- 新規契約の受付や問い合わせ窓口は、委託により対応し、施設の管理や債権回収等は公社直営で対応している。
- 2019年～2021年にかけて新規駐車場(宝木本町、下川俣、栃木街道、下金井)の供用を開始したことにより収入は増加している。
- 現在では、宇都宮市内10ヵ所で月極駐車場を運用しており、直近は利用率95%以上を維持していたが、2024年4月に大口契約の解除があったことにより、利用率は2025年2月末現在で88.9%まで低下している。

【課 題】

- 安定収入確保のため、今後も利用率を高く維持していく必要がある。
- 契約や入金管理等の事務に加え、料金滞納、契約外駐車等も増加しており、これらに的確に対応するための効率的な取り組みが必要である。
- 需要を見極めながら新規駐車場の設置について検討する必要がある。



2 各事業の課題（3）受託事業

① トンネル管理受託事業の現状と課題

【現 状】

- 設備の老朽化等により「故障・異常発生」の通報が頻発し、その確認や対応作業に時間を要している。

項目	H30	R1	R2	R3	R4	R5
緊急出動数	16回	20回	22回	20回	27回	24回
作業総時間	563h	708h	695h	581h	448h	346h

【課 題】

- 多くのトンネルで付属設備等の更新時期を迎えており、受託業務遂行上の難度が高くなっているため、県と老朽化対策に向けた協議を行う必要がある。



② 交通管理受託事業の現状と課題

【現 状】

- 宇都宮北道路は、日光宇都宮道路との接続路線であることから、定期巡回時に併せて一体的に巡回を実施している。

2023年度、2022年度対応実績

年度	落下物回収	故障車対応
2023年度	85件	9件
2022年度	86件	13件

- 2024年度から、巡回回数が1日5回から4回に変更された。

【課 題】

- 巡回回数の変更後も引き続き適切な管理に努める必要がある。



IV 目標

- (1) 組織体制
- (2) 有料道路事業
- (3) 駐車場事業
- (4) 受託事業

組織体制における経営目標

財 源

- 収 入 （※借入金を除く） 約22.7億円 ⇒ 約25.5億円（5年間で約14億円増）
- 支 出 （※借入金返済他を除く） 約23.6億円 ⇒ 約23.4億円（5年間で約 1億円減）
（2023年度） （2025～2029年度平均）

- 債務残高 約100億円 ⇒ 約106億円
（2023年度） （2029年度）

2029年度まで実施する大規模修繕工事により一時的に増加するが、2030年度から減少する見込み。

人 材

- 「人材育成基本方針」(R7.1月) に基づき、以下の職員の育成を目指します
- 柔軟的思考と積極性を有する人材の確保
 - 課題の解決に向けて、自ら考え行動し「挑戦する職員」の育成
 - 与えられた仕事を最後までやり遂げる使命感を持った「信頼される職員」の育成
 - 担当業務にとらわれることなく、組織目標を達成するため「連携協力する職員」の育成

業務効率化

- 報告書類や会議資料等の完全ペーパーレス化
- DXによる業務効率化の推進（リモート会議、AI活用、電子決裁導入等）
- 業務継続に対するリスク管理の体制強化

有料道路事業（日光宇都宮道路）における経営目標

交通量

- 計画交通量の確保

財 源

- 5年間で25億円増
 - … 収入増（道路料金収入） 18億円（料金値上げ等による）
 - 支出削減（維持改良費・業務管理費） 7億円（通常維持費の圧縮および平準化）

安全対策

- 橋梁の老朽化・耐震化対策の完了（未実施橋梁7橋の完了）
- 管理瑕疵事案ゼロ
- 逆走、誤進入、歩行者立入件数の半減（5か年総計 前期計画比）

サービス

- 日光口PAの売上前年度比プラス
- 迅速かつ的確な情報把握と、道路利用者へのタイムリーな情報発信

有料道路事業(宇都宮鹿沼道路)における経営目標

交通量

- R6交通量の維持（約87万台）

※R7年3月交通量は推計値で算出

財 源

- R6料金収入の維持（約126百万円）

※R7年3月交通量は推計値で算出

安全対策

- 県移管後の橋梁の老朽化・耐震化対策を県と協議
- 管理瑕疵事案ゼロ

サービス

- 料金収受員の親切で丁寧な対応の継続

駐車場事業における経営目標

契約率

- 契約率の向上 各年95%以上（参考：過去5年平均 94.5%）

収入

- 各年 収入43百万円／年以上
- 新規駐車場の設置検討

業務効率化

- 契約入金事務の効率化(Webシステムの構築)
- 先進事例等の積極的な導入検討

受託事業における経営目標

高度な 技術支援

【トンネル管理】

- 着実な点検、補修の実施および技術的提案
- トンネル24時間監視体制を活用した関係機関との連携

【交通管理】

- 豊富な経験に基づいたパトロールによる安心安全な走行環境の確保

収 入

- 受託事業の拡大検討

V 目標の実現に向けた取り組み

- (1) 組織体制
- (2) 有料道路事業
- (3) 駐車場事業
- (4) 受託事業

（1）組織体制

財 源

- 日光宇都宮道路の料金改定・料金徴収期間延伸、支出抑制策の実施
- 点検業務等の直営化
- 有料道路の新規路線開拓の研究
- 受託事業の拡大検討

人 材

- 勉強会の実施、研修会参加や資格取得の推進
- ベテラン職員によるOJT教育の推進
- 計画的な人材の確保

業務効率化

- 報告書類や会議資料等の完全ペーパーレス化
- リモート会議や情報共有の効率化を推進
- 電子決裁の導入
- 業務手順書の整備、ジョブローテーションの実施

（2）有料道路事業 日光宇都宮道路

交通量

- SNS、メディアを活用した情報発信
- 関係機関や民間企業との協働によるPR活動の実施

財 源

- 料金改定・料金徴収期間延伸
- 支出抑制策の実施
- 自社光回線の活用による通信コストの縮減

安全対策

- 橋梁の老朽化・耐震化対策の実施
- 良好な走行環境の適切な維持（舗装修繕、樹木伐採、雪氷対策）
- 事故抑制対策（逆走、誤進入、歩行者・自転車立ち入り、野生動物侵入等）
- 交通管理業務の強化のためのDX推進（ライブカメラの設置等）

サービス

- 魅力ある日光口PAの創出
- ライブカメラやデジタルサイネージ等を活用したタイムリーな情報発信
- 日光地域の渋滞対策の継続（関係機関と共同した渋滞対策、SNS等による発信）

(2) 有料道路事業 宇都宮鹿沼道路

交通量

- SNS、メディアを活用した情報発信
- 民間と連携した回数券販売の実施

財 源

- 自転車の不正通行防止対策の継続
- 民間と連携した回数券販売の実施

安全対策

- 橋梁の老朽化・耐震化対策の実施検討
- 走行環境の適切な維持継続(舗装修繕、樹木伐採)

サービス

- 料金収受員の研修・勉強会の継続実施

(3) 駐車場事業

契約率

- SNSや公社HPによる空き駐車場情報の発信
- 利用しやすいWeb契約システムの構築

収入

- 新規駐車場の設置検討

業務効率化

- Web契約システムの構築
- 入金手法の一本化
- 先進事例等の積極的な導入検討

（4）受託事業

高度な 技術支援

【トンネル管理】

- 国等による専門研修への参加や現場研修等の継続実施
- トンネル防災訓練を通じた関係機関への適切な技術的助言と連携強化

【交通管理】

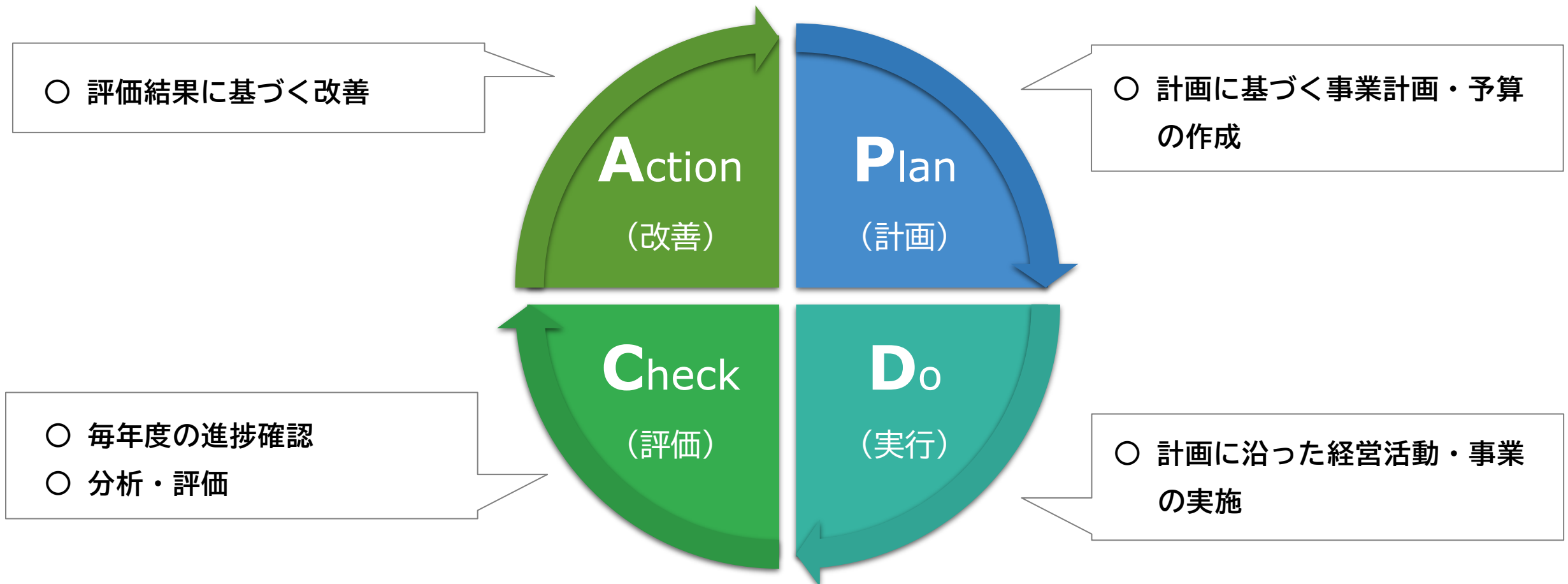
- 非常時を想定した訓練の継続実施

収 入

- 受託事業の拡大について県、市町と検討協議

VI 計画の着実な推進に向けて

PDCAサイクルの実践による持続的な改善の実現



項 目	経営目標達成指標(KGI)	成果指標	現況 (基準値)	目標値	年度ごとの目標値				
					R7	R8	R9	R10	R11
組織体制	収入 5年間で約14億円増	年間収入額	R5年度	5年間累積 約14億円増	+0.1億 以上	+3.4億 以上	+3.5億 以上	+3.6億 以上	+3.6億 以上
	支出 5年間で約 1億円減	年間支出額	R5年度	5年間累積 約1億円減	-2.0億 以上	-0.5億 以上	+4.8億 以内	-3.5億 以上	+0.2億 以内
	債務残高 5年後 106億円以内	長期借入金額	約100億円	106億円以内	103億 以内	103億 以内	108億 以内	105億 以内	106億 以内
	報告資料の完全ペーパーレス化	ペーパーレス化の完了	日報月報の 書面提出	日報月報の 電子化100%	30%	60%	100%	100%	100%
日光宇都宮 道路	計画交通量の確保	実績／計画交通量 対比100%以上	97% (R5年度)	100%以上 (各年)	100% 以上	100% 以上	100% 以上	100% 以上	100% 以上
	橋梁の老朽化・耐震化対策の完了	対策済 橋梁数	18/25橋完了	25/25橋完了	18/25	19/25	21/25	22/25	25/25
	管理瑕疵事案ゼロ	管理瑕疵事案件数	1件/5年 (H31～R5)	0件/年	0件	0件	0件	0件	0件
	逆走件数 年間10件以内	逆走件数	52件/5年 (H31～R5)	年間 10件以内	10件 以内	10件 以内	10件 以内	10件 以内	10件 以内
	日光口PAの売上R5年度比プラス	日光口PA売上	R5年度	100%以上	100% 以上	100% 以上	100% 以上	100% 以上	100% 以上
宇都宮鹿沼 道路	R5年度 交通量の維持	R5実績交通量以上	約90万台	90万台以上	90 万台以上	—	—	—	—
	管理瑕疵事案ゼロ	管理瑕疵事案件数	0件/5年 (H31～R5)	0件/年	0件	—	—	—	—
駐車場事業	契約率の向上 各年月平均95%以上	契約率	89% (R7年2月時点)	95%以上 (各月平均)	95% 以上	95% 以上	95% 以上	95% 以上	95% 以上
	利用しやすいWeb契約システムの導入	システム導入の完了	未導入	導入	導入 検討	一部 導入	導入	導入	導入



栃木県地域づくり機構



栃木県道路公社